

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

第14回全聖公会中央協議会に出席して

横浜教区主教 ローレンス三鍋 裕

5月1日から13日までジャマイカのキングストンで開催されたACC-14という会議に出席しました。全聖公会中央協議会と訳されている第14回目の会合という意味ですが、3年に一度開催されます。管区の大きさによって代表が1人から3人、主教、聖職、信徒の代表のバランスにも配慮されています。大体3分の1づつでしょうか。代表の3割弱は女性でした。

ランベス会議や首座主教会議との違いは、信徒の代表も参加し議決に加わります。予算も決めるわけですから、協議だけとか勧告だけとかではなく、それなりに決議機関という性質もあります。教区会もそうですが、信徒も意思決定に参与する聖公会の特色が現れています。主宰者のカンタベリー大主教、正副議長、首座主教会議常置委員の首座主教5人の他に各管区代表77名が参加するはずでしたが、66名の参加でした。急に変更があっても簡単にはパスポートを取れないお国もあるようで、なかなか全員とはいかないようです。メキシコの代表からは「インフルエンザで万一皆さんに迷惑をかけてはいけないから」と、丁重な欠席通知が来たのは残念なことでした。

○広い分野に及んだ話し合い

今回注目された議題は人間の性に関する問題のウインザーレポートのその後と、聖公会契約の問題と言われました。その通りでしたが、その他にも青年ネット、ファミリーネット、難民・移住労働者ネットなど、いろいろなネットワークからの報告がなされ、それに基づいて今後のことが話し合われました。聖公会の働きが本当に広い分野に及んでいることを改めて知らされました。女性ネットワーク報告には日本での宗教者平和会議や女性会議にも来ておられたカナダのアリス・メドコフ司祭のお姿もありましたし、正義と平和ネットワークからはパレスチナの悲惨な状況が報告されました。パレスチナから遠く離れた日本や韓国において、非常に高い関心が持たれていることも特に報告されていました。

□会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加
および6月25日以降)

6月

- 4日(木) 正義と平和・憲法プロジェクト
- 15日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト作業部会
- 18日(木) 宣教150周年記念プログラム実行委員会
- 26日(金) 法憲法規委員会
- 26日(金) 宣教150周年記念礼拝実行委「ゲスト部会」
- 26日(金) 宣教150周年記念プログラム実行委「シンポジウム担当企画委員会」(中部教区センター)
- 29日(月) ~ 30日(火) 文書保管委員会および作業会
- 29日(月) 正義と平和委員会
- 29日(月) 宣教150周年記念プログラム実行委「夕の祈り準備会」
- 29日(月) 青年委員会

7月

- 1日(水) 常議員会
- 2日(木) 正義と平和・日韓協働プロジェクト
- 3日(金) 宣教150周年記念プログラム実行委員会
- 6日(月) 主事会議
- 7日(火) 宣教150周年記念礼拝実行委「礼拝部会」
- 13日(月) 聖公会・ルーテル教会協議会(ルーテル東京教会)
- 16日(木) 宣教150周年記念礼拝実行委員会
- 24日(金) ~ 25日(土) 日韓聖公会青年セミナー事前学習会(名古屋学生青年センター)
- 27日(月) ~ 28日(火) 文書保管委員会および作業会
- 30日(木) 礼拝委員会

8月

- 13日(木) ~ 18日(火) 第4回日韓聖公会青年セミナー(韓国・江原道 華川およびソウル)

<関係諸団体会議等>

- 7月3日(金) NCC 常議員会

(次頁へ続く)

正義と平和関連で日本聖公会としてぜひ報告しなければならないことは、韓国のキム・グワンジュン教務院長が韓半島の危機について訴えられました。最近のミサイル発射実験による緊張の高まり、核兵器開発の可能性にも触れ、2007年に韓国で開催された聖公会世界平和会議(TOPIK)の大会平和宣言への支持と連帯を求められたのに対し、満場の拍手をもって支持を表明し、決議として採択されました。この会議の終了直後に北朝鮮による核実験が現実のものになってしまった(らしい)のには本当に驚きましたが、韓国の人々にはキム司祭の訴え通りに目の前の危険であることを痛感させられた次第です。

○人間の性に関する問題について

さてウインザー・コンティニューエイション・グループと呼ばれる部会の報告を受けて、人間の性に関する問題で三つのモラトリアム(一時停止)の継続が決議されました。現実に関性の相手と生活を共にしている人を主教に接手すること、同じ性の人同士の婚姻のような関係を公式に祝福すること、これらの問題に関連して他管区の管轄に立ち入って干渉することの三つの停止です。これらのモラトリアムに期限をつける修正案も出されましたが、ほとんど問題にされませんでした。期限をつけるということは、その期限後は拘束されないということになるという懸念が多数を占めたのです。しかし種々の困難にもかかわらず自制してモラトリアムに協力している地域の教会に対する感謝も付記されています。また同性同士の関係を「公式には祝福しない」とは、祈祷書にそのような式文を入れないという意味で、牧会的配慮から排除するわけではないという考えもあるようです。植松首座主教が出席された前回のACC-13では米国聖公会はオブザーバーとしての参加しか認められず厳しい雰囲気だったとのことですが、今回は私には聖公会家族の思いやりを持った温かさを感じさせる会議でした。

○「聖公会契約」について

聖公会契約は契約という日本語からして理解しにくい問題でしたが、今回は「リドリー・ケンブリッジ草案」と呼ばれる第3草案について議論されました。タイトルも聖公会コミュニオン契約と、共同体・交わりを指すコミュニオンという

(前頁より)

- 7月8日(水)～17日(金) 米国聖公会総会(カリフォルニア) — 首座主教出席
- 7月9日(木)～10日(金) 日本聖公会社会福祉連盟第50回大会(神戸)
- 7月17日(金) NCC分かれ合い委員会(NCC)
- 7月22日(水) 都宗連理事会
- 7月22日(水)～24(金) 聖公会保育連盟大会(名古屋)
- 7月28日(火) 日本キリスト教連合会定例会・常任委員会(日本基督教団)
- 8月19日(水)～21日(金) 第52回聖公会関係学校協議会教職員研修会(横浜)

言葉が加えられ、基本が契約上の権利と義務という性質ではなく「愛の絆」で結ばれた教会の共に歩むべき姿を苦勞して文章化したようです。本文はいずれ訳されるでしょうが、今はウェブ・サイトをご覧ください。専門的には自信を持って説明できませんが、4章から成るうちの3章まではシカゴ・ランベス四綱領を基に聖公会のあるべき美しさを述べているだけのようで議論になりませんでした。第4章はこの契約への加盟、離脱、契約の精神から逸脱した場合の資格の問題などに触れています。私が属したグループ討議では第3章までが合意され尊重されれば十分なのだから、第4章は削除したらという意見さえありました。私個人的には契約という以上は加盟、離脱などの定めがないのは不十分な気がしました。これを議長のパタソン主教にお尋ねしたら、お立場上かニヤリとしただけで答えてくれませんでした。「全体として上手に内容と表現をソフトにしたのだから、もうこれで行こう」という肯定と「ちょっと弱くなりすぎているのでは」という不満にわかれたようです。後者からもう一言という感じで「第4章の不明確な部分を作業部会に整理させた上で各管区に提示し同意を求める」という修正案が出され、賛成33、反対(原案賛成)30、棄権2で可決されました。しかし事前の照会では賛成し

かねるといふ管区がいくつかあったのに、細かい文言の問題はともかく聖公会共同体契約はACC-14においては高い評価を受けたことは確かです。これから各管区で審議され、この共同体契約(誓約)に加わるかどうかが決めますが、ACC-14としては聖公会の分裂ではなく一致を選んだ訳です。日本聖公会宣教150周年にカンタベリー大主教の来日が実現するかどうかは、ランベス会議後に聖公会全体が一致を保てるかを確認しないことには分からないと言われていたのにです。この何年間かの困難な時にカンタベリー大主教を支えてこられ、今回議長を退任されたパタソン主教にも感謝の決議がなされました。後任の議長には中央アフリカのテンガテンガ主教が選ばれました。

正味11日間、議事が休会になったのは主日礼拝と二つのレセプションくらいのもので、とても簡単にはご報告できません。しかし、分裂かとさえ言われた聖公会、ACC-14に関して言えばやはり家族でした。カンタベリー大主教の穏やかながら力強いリーダーシップも感謝でした。前回お会いした時のお言葉ですが「いつか聖公会はもう必要がないという時が来るかもしれない。しかし少なくとも今のところ神様は聖公会を用いてくださっていると

信じている」。

一つの出会いがありました。総督主催のレセプションでジャマイカの老主教が「わたしの妻は日本人なのでご紹介したいが」と言われました。カナダ生まれの日系2世だそうで、ご自分でおっしゃる通り日本語はお上手ではない。マリコさんとおっしゃる方、トロント留学中の主教(当時は司祭)に出会われ、司祭時代は首都のキングストンにお住まいであったが主教就任によりジャマイカの一番南の外れの教区に赴任、10年以上前に引退された由。ご夫妻ともに亡くなられた西村哲郎司祭とはトロント時代からの親友。マリコ夫人、一度も日本に行ったことがないとのこと。「聖職の俸給では無理」と笑っておられました。もちろん時として違った意見もお持ちだったでしょうが、お二人で助け合って人生を歩んでこられた確かさを感じさせるご夫妻でした。思いもかけない人生だったことでしょう。しかし、その中で召され、捧げ、用いられてこられた確かさを感じるのです。このお二人の中にも聖公会が用いられ歩んできた道、これからも歩み続けるべき道を感じさせられました。何とも疲れる出張でしたが、今まで以上に聖公会を好きになって帰ってきました。

刺激されて

管区事務所の総主事という立場になると、自分の能力とは関係なしにいろいろな役職に就くことが求められてくる。その中のひとつに「東京都宗教連盟理事」というのがある。仏教連合会、神社庁、教派神道連合会、キリスト教連合会、日本宗教連合会、新日本宗教団体連合会からそれぞれ数名が理事として派遣され、東京都宗教連盟が構成されている。その理事会では、私は端に座って、ただじっと聴きいている

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

状態ではあるが、その中でも刺激され、学ばされ、考えさせられることがある。そのことは各個教会(また教役者の方々)にもお伝えし、意識されたほうが良いのではと思うので、お伝えしたいと思った。

最近開催された理事会ではこんな報告が為された。今年の11月に研究協議会が開催されることになっているが、それは「宗教・宗教法人の公益性」というテーマが予定されている。そ

これは、現状では、財務省の審議官レベルでは宗教法人課税が検討されていること。また、公益法人改革では公益について「不特定多数の利益の増進に資するもの」と定義されたこと。そういう中で、社会に宗教が存在していることそれ自体が良いことなのだ打ち出していくことの必要性、宗教の側がそれをしっかり認識する必要がある、との提案を行う、とあった。

これは重要なことを指摘しているのではないかと思った。宗教、ことにキリスト教、そして各個教会は、不特定多数の利益の増進に資することが意識されているか。また、教会が存在していることそれ自体が良いことなのだ、との思いを自信を持って発信できるか、また出来ているのだろうか、と。

イエス様が目指すもの、そして、イエス様の福音はまさにこのことの具現化ではないだろうか。利益の増進などという言葉は、表面的にはイエス様の福音、イエス様の目指すものに当てはめることは似つかわしくないと思うが、利益ということ、人が人として生きていくと捉え、その視点から見るとき、つながりが見えてくるのではないだろうか。

もうひとつ。「宗教法人と葬儀価格動向」というレポートが配布された。大和総研がまとめ

たものであるが、葬儀価格が減少傾向にあるとし、その要因として5つが挙げられた。葬儀業界の価格競争、高齢化による参列者減少、信仰心の希薄化、公正取引委員会による葬儀実態調査、インターネットによる葬儀情報の増加、の5つである。その理由のひとつに「信仰心の希薄化」があげられていることに注目した。

その説明理由は、死亡数・葬儀数が右肩上がりのため宗教儀式に接する機会が増加しているにもかかわらず、世帯の信仰祭祀費の支出は減少傾向が続いている。それゆえ、信仰心の希薄化が叫ばれるのも頷けよう、とある。本当だろうか。この分析は正しいのだろうか。データとしては間違いではないのだろうか。しかし、信仰心が経済理由によって測られていることに違和感を覚えた。また、信仰心をこのような判断基準でもって為されている(宗教もある)のか、と考えてしまった。と同時に、私たち(キリスト教・聖公会)にもそんなところはないかと思直してみることも必要なことであろうと思った。

私にとって畑違いの感が否めないが、理事会に出席し、刺激されてきた。皆様はどうお考えになられるのでしょうか。



□主事会議

第57(定期)総会期第11回 6月3日(水)

〔主な協議事項〕

1. AC環境ネットワークより、環境担当者窓口設置に関して
(継続協議中)
2. 第1回韓国スタディ・ツアー不足金支出に関して
不足額(30万円程度)を「日本聖公会研修支援資金」より支出する。
- 2-(2) 海外旅行保険の加入について
一般参加者の保険加入は本人の責任において行い、管区が派遣する者の保険加入

は管区の責任において行うものとする。

3. 各教区財政担当者連絡協議会アンケートに関して
本年12月12日開催の表記協議会資料作成のためのアンケートについて意見を交換
4. 中高生・青年たちへの平和教育支援に関して
(次回協議事項とした)
5. 聖公会出版の聖公会関係学校の聖歌集印刷出版に関して
日本聖公会は、所有する聖歌集の原版を聖公会出版が印刷出版する折に使用することを認め、その使用料については改めて

相談して決めることとする。すでに発行したものの使用料については、聖公会出版より申し入れのあった金額を受け入れることとする。

次回以降の会議

7月6日(月)、9月4日(金)

□関係諸団体

日本聖公会社会福祉連盟

- ・第50回記念大会—神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ— 主教八代斌助師父の足跡をたどる 7月9日(木)～10日(金) 神戸聖ミカエル教会 主題講演(講師:社会福祉法人光朔会オリンピア総施設長 山口 元氏)、シンポジウム、施設見学(神戸国際大学・高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫・聖ミカエル兵庫幼稚園)など。

日本プロテスタント宣教150周年記念大会

キリストにあってひとつ —主イエスの証し人

として— 7月8日(水)～9日(木) パシフィコ横浜 国立大ホール・会議室

- ・8日(水) 17時～ 記念フェスティバル、記念開会礼拝
- ・9日(木) 10時～ 記念式典 13時半～ 基調講演・分科会等 16時～ 150周年記念派遣礼拝
- ・その他展示、ミニコンサートなど。参加には事前登録が必要。詳細は各教会に配布の案内をご覧ください。

日本キリスト教連合会

- ・2009年度第1回定例会「日本キリスト教界の現状と展望」7月28日(火) 14時～16時 日本基督教団4階会議室 講師:三谷康人(東京キリスト教学園、いのちのことは社、エリヤ会、OCC、その他の理事や役員として奉仕。国内外の教会で証し伝道を行っている) 出席自由。

《人 事》

北海道

- | | | |
|----------------|-------------|------------------------------|
| 聖職候補生 ヨハネ池田 亨 | 2009年5月16日 | 執事に接手される |
| 執事 ヨハネ池田 亨 | 2009年5月16日付 | 札幌キリスト教会牧師補に任命する。 |
| 聖職候補生 サムエル吉野暁生 | 2009年5月16日 | 執事に接手される |
| 執事 サムエル吉野暁生 | 2009年5月16日付 | 岩見沢聖十字教会及び美唄聖アンデレ教会牧師補に任命する。 |

東北

- | | | |
|-----------------|-------------|---|
| 司祭 アタナシオ笹森伸兒(退) | 2009年5月31日付 | 司祭ヤコブ林国秀のもとで、聖ペテロ伝道所および西の平聖パウロミッション(仙台基督教会)において、囑託(非常勤)の任を委嘱する。(任期2010年3月31日まで) |
|-----------------|-------------|---|

大阪

- | | | |
|------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 執事 フランシス趙 鍾必(チョ・ジョンピル)(大韓聖公会ソウル教区) | 2009年5月27日 | 司祭に接手される(於ソウル教区主教座聖堂) |
| 司祭 フランシス趙 鍾必 | 2009年5月27日付 | 大阪聖ヨハネ教会牧師補の任を解く。 |
| | 2009年5月28日付 | 主教座聖堂付とする。 |

神戸

- | | | |
|----------------|------------|---------------------|
| 司祭 アンデレ松尾常雄(退) | 2009年4月1日付 | 主教アンデレ中村豊管理のもとで、呉信愛 |
|----------------|------------|---------------------|

教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

《施設》

弘前昇天教会(東北)

FAX専用回線新設 0172-88-5087

岡山聖オーガスチン教会(神戸) 住居表示変更

700-0817 岡山市北区弓之町 9-37

「みんな集まれ！」

—日本聖公会宣教150周年記念プログラム—

管区事務所宣教主事 司祭 武藤 謙一

今年のイースター以後しばらくの間、わたしの楽しみの一つはメールを開くことでした。日本聖公会宣教150周年記念プログラム実行委員会がお願いした各教会のイースターのときの写真を見ることができるからです。聖公会手帳で名前は知っていても聖堂やイースターの集合写真を見るのは初めてという教会がほとんどでした。桜が満開な教会もあれば、まだ春には遠いと思われるような教会もありました。司祭と数人だけで守られたイースター礼拝だったんだなど分かる教会や、大勢の子どもたちも楽しそうに写っている写真もありました。日本聖公会は小さな群れであると言われますが、宣教150周年を迎えてそれぞれの歴史を刻みながら現在を迎えている一つひとつの教会の多様性と、でもわたしたちは同じ日本聖公会の肢につながっているという一体性を感じました。

現在は日本聖公会に関係する幼稚園、保育園また福祉施設の写真が送られてきています。これもまた初めてみる施設ばかりですが、各地においてイエス様の名によって建てられた施設によって多くの人々の教育、保育、医療、福祉の働きがなされていることを改めて知らされます。

これらの教会や施設の写真は9月22日(火)に立教大学池袋キャンパスで行われる日本聖公会宣教150周年記念プログラムの一つとして展示される予定ですが、歴史を振り返る写真と合わせて、今の日本聖公会の姿を知ることがで

きるのはうれしいことです。

9月22日(火)の記念プログラムについては、すでに各教会・施設に案内が届いていると思いますが、9月23日(水)に東京カテドラル聖マリア大聖堂で行われる記念礼拝の前日にシンポジウム、写真展、コンサート、ブース出店、そして夕の礼拝、交流会が予定されています。現在それぞれの担当者が準備や募集をしておりますが、シンポジウムについては「東アジアの平和と聖公会の役割」というテーマでフィリピン聖公会、大韓聖公会、日本聖公会からスピーカーをお願いすることになっています。またコンサートには大韓聖公会ソウル教区のオモニ合唱団の出演がきまりました。ブースの出店については現在出店を受付中です。夕の礼拝ではジェファーツ=ショーリ米国聖公会総裁主教が説教をされることが決まりました。また交流会には全国青年大会のリユニオンとして多くの青年たちに呼びかけがなされています。また大韓聖公会ソウル教区は約100名が来日し、一緒に150周年を祝ってくださろうとしています。

普段はそれぞれの地で信仰生活に励んでいるわたしたちが一堂に会し、互いの働きを知り、また交わりを深め励まし合うときとなり、これまでの150年に与えられた恵みを感謝し、世界のことにアジアの諸教会と共に歩む思いを深める機会になることを願っています。

9月22日・23日に集まれる方は日本聖公会信

徒の中で限られた数になるでしょう。来られる方も交通費や宿泊で大変かもしれません。でも一人でも多くの方々とこの時に共に集い、語り、考え、祈ることができることを楽しみにしていま

す。さまざまな理由で参加できない方も数多くおられることでしょう。どうぞこの時を覚えてお祈りくだされば幸いです。



9月22日(火・休) 日本聖公会宣教150周年記念プログラム

会場 立教大学池袋キャンパス 11号館およびチャペル前広場

	ブース	写真展	講演会	コンサート
10:00	準備	日本聖公会の歴史 と今		
11:00	ブース			
12:00				オルガン 聖歌隊
13:00				大韓聖公会オモニ 聖歌隊など
14:00			シンポジウム 東アジアの平和と 聖公会の役割	
15:00				
16:00	片付け			大韓聖公会オモニ 聖歌隊など
17:00	夕の祈り 説教：米国聖公会総裁主教 ジェファーツ＝ショール主教			
18:00	交流会 誰もが参加できる楽しいパーティーを企画中。共に食卓を囲みましょう！			
19:00	参加費(予定) 一般 2,000円/学生 1,000円			

*ブースの出店申し込みは7月20日締切です。

9月23日(水・祝) 13時30分 日本聖公会宣教150周年記念礼拝



会場 東京カテドラル聖マリア大聖堂

司式 日本聖公会首座主教 植松 誠主教

説教 カンタベリー大主教 ローワン・ウィリアムズ主教

「日韓教会連合統一協会問題対策セミナー」に出席して

東京教区 執事 ステパノ ^{タク}卓 ^{ジウン}志雄

「イエス・キリストは人類の救いに失敗し、教祖文鮮明こそが人類を救うメシアである」と信じ、マインドコントロール、靈感商法や合同結婚などで大きな社会問題を起こしている「世界基督教統一神霊協会（以下、統一協会）」についてはマスコミなどでしばしば取り上げられ、その活動の違法性および反社会性はよく知られている。しかしいまだに統一協会による被害が絶えないのが現状である。「全国靈感商法対策弁護士連絡会（以下、全国弁連）」によると、全国弁連が結成された1987年以来20年間、各地の弁護士や消費者センターに寄せられた被害相談の件数は、およそ2万9000件。被害金額は約1000億円を超えているが、この金額でもまだ全体の被害の氷山の一角でしかないと述べている。

これらの被害に対し日本と韓国の教会が共同して取り組んでいく機会と方策を見いだそうと、「日韓教会連合統一協会問題対策セミナー」が去る4月30日（木）～5月1日（金）、韓国釜山の韓大イェス教長老会釜山鎮教会で開かれた。日本からは2003年10月に組織され統一協会問題に対して取り組んでいる「統一協会問題キリスト教連絡会（日本キリスト教団、カトリック中央協議会、日本福音ルーテル教会、在日大韓キリスト教会、日本バプテスト連盟、日本聖公会）」の代表ら、また被害者家族や被害救済に取り組んでいる弁護士、被害者家族の会のメンバーを含めて17人が参加し、韓国の教会関係者ら約60人に日本の被害の実情を知らせ、日韓教会の協同を模索した。

セミナーの初日は開会礼拝で始まり、礼拝後釜山長神大学の卓志一教授から「解放後（戦後）主要異端（カルト）における揺籃の地、釜

山」というタイトルの講演が行われた。卓教授は「釜山は朝鮮戦争をはじめとする厳しい歴史の中でキリスト教が成長した所であるが、韓国におけるカルトの60%が生まれた地でもある」と指摘し、「日韓教会の関心と祈りが必要である」と主張した。また釜山で始まった統一協会に対して「統一協会は宗教組織でありながら経済組織として拡大しているし、教祖文鮮明が死亡したとしても統一協会の活動は萎縮することはない」と述べ、すでに統一協会の第2世代の構図が完成したことを示唆した。続いて日本の被害者家族の会のメンバーからの報告が行われた。彼は統一協会に入信し合同結婚式のために韓国に出国したご令嬢の状況および具体的な被害の実情を訴えた。また「人が自分で考える判断力を破壊し、信者に悪事を平気で行わせる統一協会は、許すことのできないサタンである」と述べ、「これは、独りで立ち向かえるような問題ではない。日韓の関係者が協力し知恵を出し合い解決の道を探るべきである」と主張した。また「合同結婚式のため韓国に渡ってきた日本人女性のためのケア」を韓国教会に強く要請した。そして初日最後に韓一長神大学の具椿書教授からの「最近の韓国における異端発生と動向」という講演が行われ、日本と異なる状況にある韓国教会の現状が窺える有意義な時間であった。

セミナーの二日目は、釜山に位置する統一協会の「本聖地」の現場を訪ねた。朝鮮戦争当時、釜山に避難した文鮮明が統一協会の聖典である「原理講論」の枠を固めた場所であり、統一協会の設立を準備した場所が釜山である。セミナー参加者は統一協会によって聖域化された聖地と教会、統一会館、記念館などを訪ね統一教会の歴史の変遷と実態を確認し、日韓教会と被害者のために祈りをささげる時間を

も分かち合い公式的な日程は終了した。

今回のセミナーでは、両国で起こっている統一協会問題に関する情報交換、またその問題に対して日韓教会が共通理解を持ち、その対策について共に取り組んでいくことを再確認する有意義な時間でもあったが、統一協会問題に対してそれぞれ異なる視点を持っていることが分かる時間でもあった。それは、統一協会問題の対処における切り口の相違である。

韓国教会はまず統一協会をイエス・キリストの福音を歪曲する「異端」と神学的に断罪してから統一協会問題に取り組むのである。それに伴って、主に聖職者が関心を持って異端的教理にはまらないように教理的な研究および予防活動に力を入れている。

一方、統一協会により莫大な被害を受けている日本の場合には少し異なる。被害者からの相

談を受けた聖職者、弁護士、および被害者の家族が人権的な関心を持って反社会的な「カルト」による被害者に対するケアに力を入れていることが現実である。

これからは日韓教会が祈りのうちに力を合わせて、両方の視点を深めたうえで統一協会問題に対して共に対処していかなければならないのではないかと。韓国教会は反社会的な活動によって苦しめられている日本における統一協会による被害者、ことに合同結婚式によって韓国に來ている6,500名の日本人女性をおぼえて、より積極的なケア活動に邁進していくことが重要であろう。また日本聖公会をはじめとする日本教会は、今まで少数によって進められてきた人権的次元の活動に対してより深い関心を持ちつつ、統一協会の教理がイエス・キリストの救いのみ業に対して否定していることを常に忘れてはいけない。



歴史研究者の集い

「宣教百五十年記念公開シンポジウム」の報告

今年はウィリアムズ主教来日150周年にあたるので、日本キリスト教史の碩学三人を招いて毎年の「集い」のとき、シンポジウムを開催することを決め準備し、第十九回歴史研究者の集いを2009年5月28日から30日までに設定したので、29日に会場を京都パレスサイドホテルにして、第十九回歴史研究者の集いは京都教区センターで実施した。

「歴史研究者の集い」での研究発表は5月28日午後、29日午前、30日午前に実施した。「集

日本聖公会歴史研究会会長 司祭 大江真道

い」の発表者とテーマは次の通り(略敬称)。

28日午後、諫山禎一郎(教会史編集と資料整理の方法—八王子復活教会を例として)奥村直彦(日本基督教団牧師・W・M・ヴォーリス研究の概要と課題)、尾田泰彦(正教会信徒・首司祭アントニー高井神父の生涯)。29日午前、壹岐裕志(書簡にみる九州教区旧仮大聖堂土地売却騒動始末記)。西口忠(1959年カンタベリー大主教の来日)。30日午前、中村一枝(知里真志保を育てた母なみの働き)、小林史郎(軽

井沢ショウ記念礼拝堂百年の歩み)

「聖公会・プロテスタント宣教150周年記念公開シンポジウム」は29日午後1時から5時半まで京都パレスサイドホテルの二階の広間で実施。テーマは「日本キリスト教史研究の成果と課題」。講師は森岡清美、鈴木範久、大濱徹也の三氏。

森岡清美氏は「日本プロテスタント史研究と隅谷三喜男」、鈴木範久氏はテーマの副題を「信仰自由史のなかから」として発表。3時半の休憩タイムのあとに、大濱徹也氏はテーマに「教会史研究の視点をどこにおくか」という副題で発表。司会進行は三人の講師との折衝に当たってきた立教学院史資料センターの研究員大江満氏が担当した。

森岡氏は隅谷三喜男氏が教派史にとどまっていた日本キリスト教会史を、日本近代史の文脈においてとらえた名著『近代日本の形成とキリスト教』について、その背景、特に大塚久雄氏との関係について話された。

鈴木範久氏は内村鑑三の研究家でもある宗教学者であるが、近代日本の信仰自由史をたど

る広範な立場から統計上の信徒数だけでなく聖書にふれ影響を受けた見えない信徒が多数存在することに言及。大濱徹也氏は、隅谷氏の系列に連なる地域社会の中の教会史研究の経験から、天皇制を云々することで事足りりとする教会史観に対して厳しい批判を述べられた。これら講師の講演や討議内容は後日出版する予定である。

討議では、同志社大学神学部の原誠教授が日本キリスト教史に精通した三碩学を迎えてこのシンポジウムは今までもなかったし、今後もあり得ないことであるとして、歴史研究会の企画を絶賛された。関西学院社会福祉学科の室田保夫教授は、聖公会の『現代社会福祉の源流』は高く評価されるべきだという発言をされた。当日はインフルエンザでの欠席者も多かったが、東京、三重、大阪、神戸から駆けつけた若手の宗教学者、歴史研究者、聖公会の信徒有志ら四十数人が出席した。午後はフロアから意見や質問があり、熱気溢れる雰囲気の中夕刻を迎えた。午後6時から同じ会場で懇親会に移り、交歓の時をもち、スピーチを交換し親睦と夕食の時をもった。